



防災についての実践研究 「溶岩流について正しく知り、そなえよう」

町の教育センターでは平成25年度に「富士山学習研究会」を立ち上げ、研究を進めてきました。富士山科学研究所と町地域防災課、ケーブルテレビ河口湖との連携により、共通教材を開発し、授業実践や研究員の研究会を行ってきました。その研究の一つとして、防災教育を行っています。これは子どもたちの防災教育の推進と先生方の指導力向上を目的としています。

富士山が噴火する際に、溶岩流が発生することが予想されます。今回は、この溶岩流に焦点を絞り、研究授業が行われました。開発された実験キットとマニュアルを用いて溶岩流実験を行うことで「溶岩流について正しく知り、富士山噴火が起こった時冷静に判断し行動しようとする態度を養うこと」をねらいとした授業でした。授業は10月26日（木）、小立小学校6年生の子どもたちを対象にして実施されました。

授業のはじめには、担任の梶原真希先生・山口大弥先生から火山の噴火や溶岩について画像を見ながらの話がありました。子どもたちは画像を見て噴火をイメージしたり、溶岩をどこで見たかを思い出したりして



小立小6年1組



小立小6年2組

していました。そして、もし富士山が噴火したら、溶岩流はどこからどのように流れるのかを考えました。噴火が起きたとき、火口は頂上とは限りません。富士山の麓にもたくさんの火口の跡があり、過去には麓でもたくさん噴火があったことを子どもたちは学びました。

火口が麓にもできることを確認したら、いよいよ溶岩流の実験です。実験は、富士山学習研究員の先生方、富士山科学研究所の先生方と一緒にあらかじめ設定した6つのグループに分かれて行われました。噴火口から溶岩流がどのように流れるかを予想して、立体模型にペンで書き込みました。その後、溶岩に見立てた液体を実際に模型に流し、液体がどのように流れていくかを観察しました。ペンで書いた予想と合っていたり予想とは違う方向へ流れていたり、子どもたちは液体の動きをじっくりと観察していた様子でした。実験の終わりには、



立体模型を触って地形を確認



火口を決めて流れる方向を予想



実際に液体を流して観察



地質図模型を使って確認

過去の噴火を示した地質図模型を見て、一度の噴火で富士山全体が溶岩で覆われることはないことを学びました。

最後に授業のまとめとして、富士山科学研究所の吉本充宏先生から、緩やかな地形のところでは溶岩の流れるスピードは遅くなるので、麓では人が歩くくらいの速さになるため慌てなくても大丈夫なこと、流れてくる方向から直角方向に避難すればよいことを教わりました。また、地域防災課の小佐野正吉さんからは、防災無線や防災アプリで情報が流れるので、町からの正確な情報を知ること、またいざ避難をする

必要があるときに家族とどこで待ち合わせをするか相談しておくことなど非常事態に備える上で大切になるお話をいただきました。

今回の授業の様子は、富士河口湖町のCATVでも放映される予定です。研究を積み重ねて取り組んでいる防災教育の実践授業の様子をぜひご覧いただけたらと思います。



吉本 充宏先生



小佐野 正吉さん

今年度の木工教室が終わりました



6月より小学3・4年生の児童を対象に西湖野鳥の森で行われてきた木工教室が、11月初旬に全日程を終えました。2学期には秋らしく、お月見の作品が見られたりススキ等をセンスよく飾ったりする作品が見られました。また、3年生の金槌を使う学習も行われました。大石小・河口小・西浜小・大嵐小・富士豊茂小の3年生の子どもたちは、自分のイニシャルを釘打ちし、装飾をしてお気に入りのペン立てを作ることができました。

今年度も生き生きと活動する子どもたちの姿、思い思いに作られた傑作を見ることができました。自然の材料に触れ、道具を使い、一人一人が思いを形にできるとても充実した教室となりました。

<お手伝い下さった教員OBの先生方>



希代 修先生



古屋 庄一先生



倉澤 成彦先生



渡辺 正利先生

子どもたちからの手紙の一部をご紹介します！

- のこぎりやグルーガンの使い方について教えていただきましてありがとうございます。おかげでとても良い作品ができました。とてもうれしかったです。これからの図工がとても楽しみです。
- のこぎりの切り方や物と物のつけ方を分かりやすくていねいに教えてくださいありがとうございました。のこぎりは引く時よく切れることや、物と物を上手につける方法をくわしく教えてくれたのでとても勉強になりました。
- のこぎりの切り方などを教えていただきありがとうございました。飛行機につけていただいた車りんを家族に見せたら「すごいね。」と言ってくれました。

